

日高PTA便り

発行所
日川高校PTA
事務局
山梨市一町田中



祝 辞
PTA会長 飯塚 健二

卒業生の皆様、三年間この日川高校に通い、学び、部活に励み、様々な行事や学校生活を送り、本日卒業式を迎えました。卒業生に「おめでとう」ございます。そして保護者の皆様、お子様が立派に成長した姿を前に、様々な思いでこの門出の日を迎えられた事と思います。三年間のPTA活動への協力に対し感謝申し上げます。心よりお祝い申し上げます。また、山田校長先生をはじめとする先生方、本日も来賓の同窓会をはじめ関係者のみなさまには、これまで子供たちの成長のためにご指導、ご支援をいただきありがとうございます。日頃から生徒達と本気で向き合い、考えてくださったお陰で、この日を迎えられましたこと、心より感謝申し上げます。

「卒業生に贈る言葉」を載せていただく機会があり、私は、「ウェルビーイングを大切に充実した日々を送ろう」という言葉を載せていただきました。ウェルビーイングとは「身体的、精神的、社会的に良好で満たされた状態を表す言葉」です。すべてが良好に満たされるという時は滅多にないと思いますが、充実した日々は、自分の過ごし方や考え方で変わると思っています。私が大切と思う事は、「自分はいま何をすべきか」という問いを忘す、「悩まず行動し経験することだ」と思います。日々生活する中で問いはつきものです。いま何をすべきか、考え、行動すること、感じ、気付く、何かヒントが得られる。経験することは見聞きすること以外に自身を感じることはありません。知識や感性を成長させてくれます。その繰り返しが、少しずつ自分なりの答えが見つかり、心身共に自分を満たしてくれたいと思います。ただ、常に何をすべきかと問い続けても疲れてしまいます。休養し心身をリフレッシュすること、大切なことです。疲れたら寝る。好きなものを食べる、気分がさえないときは散歩をするなど、自分がリラックスできる時間をつくることで、バランスの良い充実した日々を送れると思います。

日川高校の生徒は皆、さわやかな挨拶をしてくれ、あいつはコミュニケーションを築く基本で、お互いに気持ちがいいものです。これからたくさんの人と出会い、喜びや悩みを一緒に分かち合い、友達や家族を大切に、この三年間で学び、励み、経験したこと胸に刻み、社会の一員として活躍して



校長 山田 芳樹

「未来をひらく 自主自律の力」

日川高校が大切に受け継いできた「自主自律」の精神は、今年度も生徒たちの日常の中で確かに息づいていました。この春、卒業を迎える皆さんには、心よりお祝いを申し上げます。また、長きにわたるお子さまを温かく支えてくださった保護者の皆さまに、深く敬意と感謝の気持ちをお伝えいたします。そして校内には、旅立ちに向けて静かに気持ちを整える卒業生の姿と、新年度へ向かう在校生の意欲に満ちた表情が広がり、穏やかで温かな雰囲気包まれております。

また、昨年度より取り組んでまいりました「日川高校グラウンド人工芝生化学業」は、おかげさまで無事に完成いたしました。新しい緑のフィールドで生徒たちが生き

結ぶに、新年度竣工を迎える人工芝のグラウンドの完成が、日川高校の益々の発展に寄与すること、また、本日卒業する百八十八名の皆さんの輝かしい未来に、保護者の代表として心からの応援と、ご列席の皆様のご多幸をお祈り申し上げます、祝辞といたします。

令和八年三月一日

生きて活動する姿からは、部活動の安全性の向上のみならず、日々の練習に向かう前向きな心の変化を感じています。さらに、地域の皆さまへの開放につきましては、安全面や運用方法を丁寧に整えながら、段階的に実施してまいります。本校が地域とより深くつながり、愛される場となるよう、着実に準備を進めてまいります。

こうした中で、努力と継続の価値を改めて実感させてくれる出来事もありました。2025年には、ノーベル賞の生理学・医学賞と化学賞において日本人研究者がそれぞれ受賞するという、大変喜ばしい報せがありました。坂口志文氏は制御性T細胞に関する基礎研究で、北川進氏は金属有機構造体の開発で世界的評価を受けたと伝えられております。いずれも、環境の変化や研究上の困難に向き合いながら、長年にわたって研鑽を重ねてきた成果であり、その歩みは二朝一夕では得られないものの象徴でもあります。この姿勢は、日川高校が大切にしてきた学びの在り方と深く通じるものがあります。

一方、本校の生徒たちもまた、この一年を通して学習・探究・部活動・学校行事のすべてにおいて「続ける力」を育んできました。SSHの探究活動では、問いを立て、試行錯誤を重ねながら仲間と議論を交わす姿が見られました。部活動では、思うようにいかない日も仲間と励まし合い、粘り強く取り組む姿が印象的でした。こうした姿勢の根底には、日川高校の誇りである「自主自律」が脈々と受け継がれています。

そして、卒業生の皆さんには、この「自主自律」と「継続する力」を胸に、それぞれの新しい道で自分らしく歩みを進めてほしいと願っています。また、在校生の皆さんには、先輩方の後ろ姿から学んだ姿勢を大切にしながら、次のステージで力強く挑戦し続けてくれることを期待しています。学校としても、生徒が安心して学び、思い切つて挑戦できる環境づくりを今後も丁寧に進めてまいります。

最後に、一年間のPTA活動をはじめ、保護者の皆さまから寄せられた温かなご支援に改めて深く感謝申し上げます。これからも日川高校は「自主自律」の精神を礎に、生徒一人ひとりの成長をしっかりと支え続けてまいります。

卒業生の前途が輝かしいものであること、そして在校生が次の二年を力強く歩むことを心より祈念し、結びといたします。

『当たり前』を大切に 人生を磨いていく

三年次主任 河西 寛之

保護者の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。三年間の様々な思い出やご息を支えてこられた日々を振り返られていることと思います。これまで数多くの学校行事や学年運営へご理解とご協力をくださり、重ねて感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、歳月が経つのは早く、幼さの残っていた生徒からでしたが、卒業の瞬間を迎えました。私自身の勝手な思い込みですがコロナ禍の中学時代を過ごしてきた生徒らに、一番心配した面は『当たり前』の概念でした。日常生活に必要な挨拶や受け答えに始まり、物ごとの捉え方や取り組みに対する粘り、自身の意見を表明する力やコミュニケーション能力など、中学時までの経験が少ないのではないかと懸念していました。入学当初、未だ微熱や体調不良でも指導として下校を勧めていた頃などは学校への登校も『当たり前』のペースとして捉えにくい状況もありました。生徒たちに、持つべき力をどのように持たせられるのかをよく考えました。

行き着いた答えは、特別なこ

とではなく、当たり前を強調することでした。挨拶をはじめ、コミュニケーションをたくさん持つこと。学習量を持つことが苦手なら『投資表』を配布することで学習を意識させていく。深く考える機会が少ないなら、朝の『HIKAWAの時間』で少しでも時事問題を考えてもらう。主任の立場で出来ることは限りがありますが、年次集会や行事を多く設定することで、心や頭を動かしてもらうことを念頭に取り組んできました。

あれから三年、生徒の様子は大きく変化しました。体つきが優くなりました。表情も勇ましく柔らかくなりました。自分の意思を堂々と行動に表すことの大切さを理解し、笑顔とともに過ごせるようになりました。

人の成長は、対話と考察を重ねることで前進します。その実践の場として、日川高校は素晴らしい舞台だと思います。日川高校で培った『当たり前』が、幸せに近づくための当たり前前であつたら幸いです。

自由と責任

PTA副会長 武井 浩幸

卒業生の皆さん、このたびは

ご卒業、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。また、これまで皆さんの成長を温かく見守り、支えてこられた保護者の皆様、そして日々熱心にご指導くださいました先生方にも、深く感謝申し上げます。皆さんが今日この日を迎えられたことは、多くの方々の支えと、皆さん自身の努力の積み重ねの成果であり、心から敬意を表します。

高校生活の三年間は、授業や部活動、学校行事、友人との交流などを通して、多くの経験と学びに満ちた時間であつたことでしょうか。楽しい思い出とともに、悩みや戸惑い、思うようにいかない経験もあつたかもしれませんが。しかし、その一つひとつが皆さんを成長させ、仲間との絆を深め、困難に立ち向かう力を育んできました。ここで得た経験は、これからの人生において必ず皆さんを支える大切な財産になるはずです。

これから皆さんは、より広い社会へと羽ばたいていきます。進学や就職など、それぞれが選んだ新たな道が始まります。ここでは、高校時代よりも大きな自由が与えられることでしょう。しかし同時に、その自由には責任が伴います。自らの言動や選択が周囲に影響を与えることを自覚し、責任ある行動を重ねていくことが、信頼を築き、皆さ

ん自身の未来を切り拓く力となります。自由と責任は表裏一体であり、その両方を大切にできる人こそが、真に自立した大人へと成長していくのだと思います。

どうか日川高校で培った努力する姿勢、思いやりの心、そして感謝の気持ちを忘れず、自分らしく堂々と歩んでください。皆さんのこれからの成長とご活躍、そして幸せに満ちた人生を心よりお祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。

応援の力

PTA副会長 代永 節子

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。また、今までお子様を支えてこられた保護者の皆様に心よりお祝い申し上げます。

息子が母校日川に入学して三年。高校時代を懐かしみ、思い出しながら、強歩大会、紫風祭、ラグビー、野球応援などに参加してきました。その中で保護者の皆様との関わり、つながり、子どもたちがお互いを「たたえ合う姿」に触れる中で、改めて「応援の力」が持つ真の価値を考えさせられました。「応援」とは単なる声援だけで

はなく、仲間の努力を認め、痛みを分かち合い、共に高みを目指すとする「たたえ合い」の心の表れであると思います。この連帯感こそが、困難な時でも彼らを前へと突き動かす最強の原動力であつたと確信しています。

私たち保護者にとつても子どもの成長を共に見守り、悩み、喜びを分かち合った「つながり」は何事にも代えがたい財産になりました。共に声を上げ、祈るように見守つたあの時間は、私たち大人にも「人を想う力」の大切さを改めて教えてくれたように思います。

息子の応援団や生徒会の活動に触れ、子どもたちがこの学び舎で培った、人を思いやり、応援し合える優しさと強さは、これからの新しい世界を切り拓く大きな糧となるでしょう。

最後になりましたが、山田校長先生をはじめ教職員の先生方三年間ご指導ありがとうございました。そして保護者の皆様、PTA活動にご理解、ご協力ありがとうございました。感謝申し上げます。

卒業生のみなさんのこれから歩みが素晴らしい出会いと希望に満ちたものになるよう、心から願っています。ご卒業おめでとうございます。